



藤原 孟 議員  
(副議長)



**問** 若者の活力と高齢者の経験を生かしたい。幕別を熱く愛する人材を育成する学校を設立すべきである。この地域は対面販売が今も残り、病院を中心に薬屋、花屋、自転車屋、金物店など昭和の匂いを残す地域であり、その中心に古民家を町の憩いの場として活用する。このままでは、消えていくだけである。歴史の証拠をいかに残すかを含め、地域創生や総合的将来計画などを歴史豊かな建物の中で検討することも良いのではないか。

**町長** 錦町に昭和初期の民家が現存しており、平成26年に所有者から町に対し、有効活用の可能性についての相談があり、現地を確認の上、活用のあり方を検討したが、活用方法や運営主体等の問題、また、建物の改修に多額の費用を要することから、活用方策を見いだせないと判断した。

人口減少・高齢化が進行する中、誰もが気軽に立ち寄り、くつろぐ

## 問 答

**問** 錦町の古民家を幕別情熱学校にして活用を  
**答** 建物の改修に多額の費用を要するため、活用方策を見いだせないことから、設置は難しい



錦町に現存する昭和初期の古民家

ことができるサロンの開設や、まちの将来を担う人材が熱く語り合う場など、まちのにぎわいを創出する取組は必要であると考えているが、当該民家を活用した情熱学校等の設置は難しい。

**再質問** 何でも語れる場所、様々な交流ができる場所として活用するなど、幕別町の本町地区に唯一といってよい古き建築物を守り残す考えを持つべきである。

**答** 町がもらい受けて公共施設として活用するという前提では、有効に活用できる策を見いだせなかった。また、歴史的建築物としての価値があるとの判断もできなかった。

**問** 農業生産工程管理（GAP）の普及強化を  
**答** 東京五輪の調達基準に注視していく

**問** 農水省はGAPの強化に向けた行動計画を策定した。今後の輸出拡大や2020年に控える東京五輪も視野に国の指針に基づいた産地や経営体を増やし、世界に通用するグローバルGAPなどの普及も図るねらいである。ロンドン五輪では食料の調達基準にGAPが採用されている。  
(1) GAPの取組の現状は。  
(2) GAPは何のため、誰のために。  
(3) GAPの今後の取組は。

**町長** (1)十勝管内で実施されて

いるGAPは、十勝の営農形態に合致した十勝独自の統一の水準として十勝農業協同組合連合会が策定した「十勝型GAP」が導入され、昨年3月末現在で、183産地のうち148産地で実施されており、本町では農協が中心となり、小麦や野菜類を対象にGAPに取り組んでいる。

(2) GAPは、農業者にとって、農産物の安全性向上、環境の保全、労働安全の確保など、農産物を生産する工程管理をすることにより消費者等の信頼確保が期待できること、流通加工業者にとっては、安全を担保する取組として消費者に説明できること、消費者にとっては、安全安心な農産物が手元に届くことなど、結果として農産物に付加価値が高まり、生産者、消費者の双方にメリットがある有効な取組と考えている。

(3) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が、今後、農産物の調達基準が決められるとのことだが、基準づくりに関わる農水省がどういった考え方で組織委員会との協議に臨むのか、そして、最終的にどういった調達基準となるのか、将来の日本のGAPのあり方を左右するといってもよいほど重要な決定となることから協議の行方を注視していく。